

成長を持続する戦略フォーカス 2016年度第2四半期実績

2016年10月28日

クリストフ・ウェバー
社長 CEO

武田薬品工業株式会社



重要な注意事項

将来見通しに関する注意事項

本資料には、見積り、予測値、目標値及び計画値等の、当社の将来の事業、財務状態及び経営成績に関する「見通し情報」が含まれています。これらの見通し情報は、「目指す」、「予測する」、「仮定する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「予想する」、「施策」、「意図する」、「可能性がある」、「見通し」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「試算」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」及びその類義語（これらに係る否定的な表現も含まれます。）等の将来予測に関する用語の使用、又は戦略、計画若しくは意図に関する議論により特定可能な場合があります。

本資料中のあらゆる見通し情報は、現在入手可能な情報から得られた当社の現時点における仮定及び判断に基づいています。かかる見通し情報に関して、当社及び当社の経営陣は将来の業績に係るいかなる保証もするものではなく、また、当該見通し情報には、既知又は未知のリスク、不確実性その他の要素が含まれています。そのような要素の例としては、日本、米国及び世界全体の一般的な経済情勢を含む当社の事業を取り巻く経済状況、競争圧力及び競争の激化、適用法令、新製品開発計画の成否、規制当局の決定及びそのタイミング、為替相場の変動、製品又は開発品の安全性や有効性に関するクレーム又は懸念、並びに買収対象会社との経営統合等がありますが、これらに限定されるものではなく、またいずれかの要素に起因して、当社の実際の業績や財務状態が、見通し情報により表示又は示唆されている将来の業績や財務状態から大きく乖離する可能性があります。当社及び当社の経営陣は、見通し情報において表示されている予測が現実となることを保証するものではなく、実際の業績は予測と大きく異なる可能性があります。

本資料に含まれる見通し情報は、本資料の日付時点のものに過ぎず、今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社及び当社の経営陣は、本資料に含まれる見通し情報の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

製品情報に関する注意事項

本資料には、当社の製品情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で販売されているものではありませんし、また国によって商標、効能、用量等が異なる場合もあります。また、本資料に記載されている医療用医薬品（開発品を含む）の情報は、そのような製品を宣伝・広告するものではありません。



力強い実績と変革ロードマップの実行

VALUES



- タケダイズム

患者さん中心 → 社会との信頼関係構築 → レピュテーション向上 → 事業の発展

PEOPLE



- 患者さんとカスタマー中心
- 機動性に富んだグローバル組織
- 人材育成

R&D



- 世界レベルのイノベーション推進

イノベーションへの新たな取り組み

BUSINESS PERFORMANCE



- 持続的な売上成長

消化器系疾患、オンコロジー、中枢神経系疾患および新興国事業

- 持続的な収益成長

コスト規律



戦略フォーカスによる力強い上期実績 - 実質的な成長 ; 売上収益+7.4%、Core Earnings+12.7%、Core EPS+49.3%

- 成長ドライバーの牽引による力強い上期実績
 - ✓ エンティピオの移動通年(Moving Annual Total)売上高 が10億ドルを突破: 現在タケダのNo.1製品
 - ✓ ニンラーロの上市は計画通り、これまで発売されてきたプロテアソーム阻害剤の中で最も成功した立ち上がり
- 通年の利益(実質ベースおよび財務ベース)予想を上方修正

第2四半期の主要マイルストーン達成:

- 欧州医薬品評価委員会(CHMP)による、ニンラーロの条件付き承認推奨の見解
- 研究開発体制の変革は着実に進捗; PRA社との提携を発表
- デング熱ワクチン「TAK-003」のPh-3試験; ワクチン接種開始
- 新興国で医薬品アクセス(Access to Medicines)の新たな取り組み



戦略フォーカスにより、力強い実質的な成長を達成

	2016年5月10日公表 旧ガイダンス	上期実績	
実質的な売上収益	1桁台半ばの成長(%)	+7.4%	✓
実質的なCore Earnings	10%台前半から半ばの成長(%)	+12.7%	✓
実質的なCore EPS	10%台前半から半ばの成長(%)	+49.3%	✓



実質的な Core Earnings 成長のガイダンスを上方修正 実質的な Core EPS 成長はガイダンス範囲内で高い水準を見込む

2016年度マネジメントガイダンス

	2016年5月10日 旧ガイダンス	2016年10月28日 修正ガイダンス
実質的な売上収益	1桁台半ばの成長(%)	1桁台半ばの成長(%)
実質的なCore Earnings	10%台前半から半ばの成長(%)	<u>10%台半ばから後半の成長(%)</u>
実質的なCore EPS	10%台前半から半ばの成長(%)	10%台前半から半ばの成長(%)
一株当たり配当金	180円	180円



成長ドライバーの売上収益は力強く15.3%増

実質的な売上成長

	16年度上期 (億円)	対15年度	
消化器系疾患*	1,535	+39.4%	
オンコロジー**	1,677	+4.9%	
中枢神経系疾患	328	+28.2%	
新興国事業*	1,308	+4.9%	
成長ドライバー***	4,583	+15.3%	タケダ連結売上内 成長ドライバー 54%

* 新興国でのパントプラゾールの売上は、新興国での主力製品であるため新興国事業に含め、消化器系疾患(GI)には含めておりません。
その他の地域でのパントプラゾールの売上はこのスライド中には含まれておりません。

** ベルケイドのロイヤリティおよびその他の収益を除いたオンコロジーの実質的な成長率は+6.4%です。

*** 全体成長率は、消化器系疾患、オンコロジー、中枢神経系疾患、新興国事業の売上合計から重複を排除して算出しています。
(例：新興国事業とオンコロジーにおけるアドセトリス等)



エンティビオ® 2018年度中に20億ドルを超える売上に向け順調に進捗

- 54ヶ国で承認
- 移動通年(Moving Annual Total) 売上高で10億ドル突破
- 9月にベルケイドの売上高を超え、タケダのNo.1製品
- 市場調査によると、米国でのDTC(Direct to Consumer)広告キャンペーンの反応は良好、エンティビオの認知度が高まり、医療関係者の話題となる



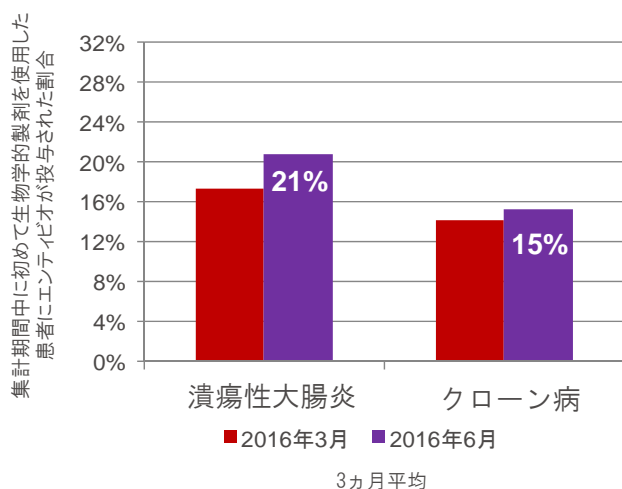
炎症性腸疾患に対する好ましい治療オプションとしてエンティビオが選択されるポジショニング:

- ✓ 生物学的製剤新規投与の患者さん、抗TNF α抗体で治療に失敗した患者さんに対する有効性
- ✓ 特異的な結合により、リンパ球の消化管組織への移動を阻害
- ✓ 「Boxed Warning」が無い優れた忍容性
- ✓ 強固なライフサイクルマネジメントを実施中

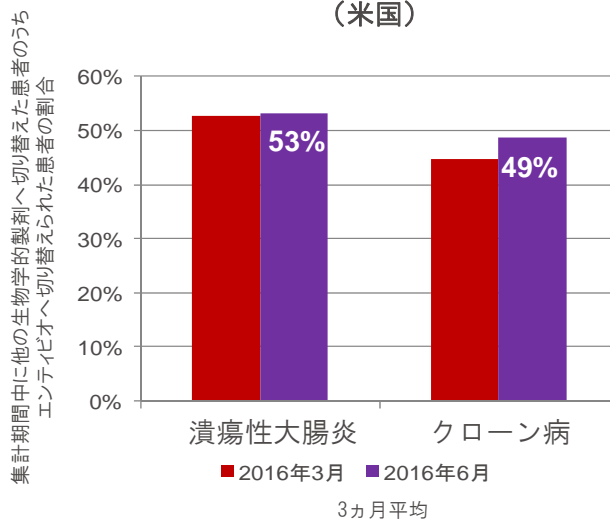


エンティビオ® 患者シェアは生物学的製剤の新規および切り替えの両セグメントで成長を持続

生物学的製剤の新規投与患者 (米国)



他の生物学的製剤からの切り替え*患者 (米国)



欧州においても生物学的製剤の新規患者シェアは順調に推移;
潰瘍性大腸炎13.8%、クローン病8.5% (2016年6月)

* 全ての生物学的製剤(セカンドライン/サードライン以降)の切り替えを含む

9 Source (US data): SHA Medical and Pharmacy Claims data, Dynamic/ Bio-naive share based on 3 month moving average. Patient numbers / shares estimated from projected patient counts from SHA claims data
Source (EU data): Internal analysis based on data from several different sources

武田薬品工業株式会社



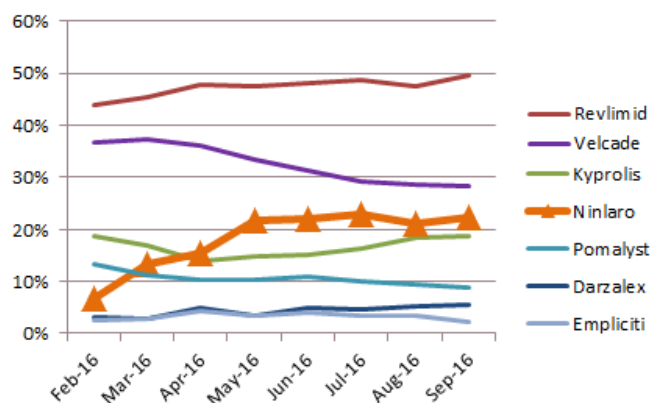
ニンラーロ® 米国で力強い立ち上がり 売上高ピークはベルケイド®をしのぐポテンシャル

ニンラーロの有効性、安全性、利便性により、
長期継続する治療において他のプロテアソーム
阻害剤が持つ限界を克服できる可能性がある

- 発売後の最初の一年で、最も治療期間(月)が長かったプロテアソーム阻害剤¹
- 価格、流通モデル、薬剤のプロファイルについて、保険者や医師から良好なフィードバックが寄せられている
- 患者さんからの声もポジティブ
- 上市後半年でセカンドラインにおけるシェアは約20%に到達; 多発性骨髄腫の新規治療薬の中で最も高いシェア



新規にセカンドライン治療を開始する患者²





ニンラーロ®を世界中の多発性骨髄腫の患者さんに

- 欧州医薬品評価委員会(CHMP)による条件付き承認推奨の見解(2016年9月)
- 日本申請(2016年7月)
- カナダ承認(2016年8月)、イスラエル承認(2016年8月)、ベネズエラ承認(2016年6月)
- 2017年までに予定通り、各国で申請あるいは承認を取得
- 様々な治療ラインセッティングにおいて包括的に実施中のPh-3試験は予定通り進捗
- 研究者主導研究申請プログラムでは、ニンラーロの多発性骨髄腫における使用において、さまざまな併用療法や幅広い患者層で検討を行い、さらに他効能についても検討中



研究開発体制の変革：着実に進捗

- 変革の目的は研究開発の生産性向上、研究開発への投資は維持
- オンコロジー(がん)、消化器系疾患(GI)、中枢神経系疾患(CNS)の3重点疾患領域とワクチンに絞り込み、研究開発活動は日米に集約
- PRA Health Sciences とのパートナーシップを発表
 - パイプラインの臨床開発および市販後の活動を行うための主要な戦略的パートナー
 - このビジネスモデルにより、業務の効率性改善、グローバル化のさらなる推進、インフラ・固定費の削減が可能
- 研究開発体制変革の加速：一時費用は2016年度に400億円(当初予定は250億円)、2017年度に350億円の見込み(総額750億円には変更なし)
- 変革実施後の費用削減効果は年間約180億円：今後、革新的なパイプラインに再投資



デング熱ワクチン ; Ph-3試験のワクチン接種開始 ジカ熱ワクチン ; 米政府の助成獲得

TAK-003 デング熱ワクチン

Ph-3試験「TIDES」:4つのデングウイルス血清型全てに対するTAK-003の有効性を評価する目的で、ラテンアメリカおよびアジア各国において、2万人以上の被験者を登録予定

TAK-426 ジカ熱ワクチン

米国政府機関 Biomedical Advanced Research and Development Authority (BARDA)より、最大3億1,200万米ドルが交付されるジカ熱ワクチン開発助成先として選定される

TAK-507 チクングニア熱 ワクチン

世界的な脅威であるチクングニア熱の撲滅に向けZyus Cadila社との提携を発表



- TAK-214 (ノロウイルスワクチン)後期Ph-2有効性フィールド試験を実施中
- TAK-195 (ポリオワクチン) Ph-1 試験を2017年度第一四半期に開始予定
- TAK-850* (細胞培養季節性インフルエンザワクチン)プロジェクトの再評価により、日本における開発中止を決定



ビジョン2025にむけて 力強い実績と変革ロードマップの実行

VALUES



- 新たな取締役とガバナンス体制
- 包括的なコンプライアンスプログラム

PEOPLE



- 患者さん中心、カスタマー満足度評価
- タケダの社員構成(全従業員の70%は国外)を反映した多様性が高いエグゼクティブチーム
- 多様な人材や能力の幅広い開発プログラム

R&D



- オンコロジー(がん)、消化器系疾患(GI)、中枢神経系疾患(CNS)の3重点疾患領域とワクチンに絞り込み
- 研究開発活動は日米に集約、PRA社とのパートナーシップ
- 数多くの研究開発コラボレーション

BUSINESS PERFORMANCE



- スペシャリティ事業の拡大で売上成長を牽引し、消化器系疾患(GI)およびオンコロジー(がん)領域でワールドクラスの能力を構築
- 持続的な利益成長; Core Earningsマージンを毎年1-2ポイント改善

Better Health, Brighter Future



武田薬品工業株式会社